

令和 2 年 6 月 25 日現在

機関番号：12611

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2018～2019

課題番号：18H05576・19K20785

研究課題名（和文）中国語における連続構造の研究

研究課題名（英文）The construction of Chinese complex sentence

研究代表者

橋本 陽介（Hashimoto, Yosuke）

お茶の水女子大学・基幹研究院・助教

研究者番号：10726631

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、中国語で「流水文」と呼ばれたものを中心とし、複雑な「一つの文」がどのように構成されているのかを明らかにするものである。「流水文」とは、埋め込まれずに比較的独立した節が次々と付加される形で複雑な観念を表すものである。本書が明らかにする問題は、つとに気づかれていたものだが、謎のままであった。これは欧米で作られた言語学の枠組みを当てはめていたからである。本研究は中国語が持つ「複雑な文」の形成方法に着目することによって、「文とは何か」を巡る問題の一般理論に大きく寄与するものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

言語における「複雑な文」がどのように作られているかについて、これまでの研究は英語など、欧米の言語をもとにした理論で分析されてきた。ところが、中国語では異なる視点から分析する必要がある。本研究では、中国語の複雑な文の形成方式から、「文とは何か」を考える一般理論に寄与した。「文」の分析方法について、新たな観点を導入することができた。また、日本語との比較から、翻訳の問題にも寄与した。

研究成果の概要（英文）： In written language, if we define “one sentence” as a unit from period to period, those of Chinese, compared to those of Japanese or English, seem to be different. The constitution of “one sentence” of Chinese written language, especially long and complex one, is considerably different with other languages.

In former studies, some Chinese complex sentences are not well analyzed. The reason is that they directly apply the analysis of western languages to Chinese. Their analyses start from simple sentence, and treat complex sentence as logical relation between the simple sentences. To understand Chinese complex sentence, need to leave the former analyses. If we reanalyze based on Chinese, we can find rule of the construction of Chinese written language. In this study I will show the construction and the way of thought represented in Chinese written language.

研究分野：中国語テキスト言語学

キーワード：文の結束性 流水文 複文 一つの文

## 1. 研究開始当初の背景

言語における「文」とは一般的に「ひとつのまとまった考えを表すもの」とされる。現代の書き言葉では「句点から句点まで」が「一つの文」と通常は見なされる。しかし中国語の物語文では、読点・句点による区切り方が日本語や英語などの言語と相当に異なっている。区切り方が異なるということは、「文」の観念、すなわち中国語において「ひとまとり」の観念が日本語や英語とは異なるということである。本研究は、中国語の「文」、つまり「ひとつのまとまった考え」とはどのように構成されているのかを、日本語や英語と比較の上で明らかにする。さらに、その修辭的特徴を明らかにし、中国語における表現可能性の問題を考える。

## 2. 研究の目的

これまで、中国語の複雑な「文」がどのように形成されているか、明らかになっていないのは、欧米の研究手法を中国語に当てはめているからである。中国語にうまく当てはまらないとするならば、それは欧米言語の分析を基準としているからである。本研究では中国語が持つ「論理」に着目することによって、「文とは何か」を巡る問題の一般理論への寄与を目指す。

## 3. 研究の方法

まずは中国語小説の日本語訳、日本語小説の中国語訳、中国語小説の欧米言語への翻訳、欧米言語の中国語への翻訳を調査し、原文と文の切れ目が異なっているものを精査する。この際、原文はできるだけ異なった文体のものを選び、異なった訳者のものをできるだけ取り上げる。これらの作業を通じて共通するパターンを洗い出す。このようにすることによって、中国語では一文で表現しているものが、日本語等の言語では複数の文になってしまうのはどのようなパターンか、また原文では複数の文にわたっているものが、中国語では一つにまとめられているのがどのようなパターンかが明らかになるだろう。以上の作業を通じて「一文」の観念の違いを他言語との比較から明らかにする。さらに、文の切り方が異なっている構文上の理由を考察する。

## 4. 研究成果

言語における「一つの文」とは一般的に「一つのまとまった考えを表すもの」とされる。現代の書き言葉では「句点から句点まで」が「一つの文」と通常は見なされる。しかし中国語の物語文では、読点・句点による区切り方が日本語や英語などの言語と相当に異なっている。区切り方が異なるということは、「文」の観念、すなわち中国語において「ひとまとり」の観念が日本語や英語とは異なるということである。本研究は、中国語の「文」、つまり「ひとつのまとまった考え」とはどのように構成されているのかを、日本語や英語と比較の上で明らかにする。さらに、その修辭的特徴を明らかにし、中国語における表現可能性の問題を考える。何をもち「ひとつのまとまった考え」とするのか、果たして言語によって違いはあるのだろうか。あるとすればどのレベルで異なるのだろうか。また、これに付随して、言語学と文学をつなぐ修辭文法の問題系列を発掘し、新たなパラダイムを構築した。

## (1) 「流水文」の先行研究と連続構造

中国語の書き言葉、とりわけいくつもの読点が使われるような複雑な文では、「一つの文」、すなわち「句点から句点まで」の区切り方が英語や日本などの言語とは相当に異なっている。その特徴は、欧米言語や日本語では「一文」にできないものが読点でつながっていつてしまう。読点でも句点でもよい場合が多い。複文の論理的関係がよくわからない。従属節が比較的独立している。とまとめることができる。こうした特徴について呂叔湘(1979:27)は「流水文」と呼んだ。ただし、呂の言う「流水文」は多分に印象的なものであり、厳密な定義がされているわけではない。その後の流水文の主な先行研究としては、胡明扬・劲松(1989)、吴竟存・梁伯枢(1992)、沈家煊(2012)、王洪君・李榕(2014)、王文斌・赵朝永(2017)などが挙げられる。吴竟存・梁伯枢(1992)や王文斌・赵朝永(2017)が示した「流水文」の形式的記述は、一般化したものとしては  $SP_1+SP_2+SP_3\dots SP_n$  と表せる。ここで S は主語、P は述語を表し、S は表出されないことが多い。本研究でも、形式的記述としてはこれを採用する。ただし、「流水文」の名称は形式を定義したものではない。一般言語学としては Givón (1997:55)の言う「連続構造」 serialization の概念が敷衍できると考えられる。中国語は、修飾語や従属節を相対的に取りにくい言語であり、埋め込まれていない比較的独立した節を次々に付加していくことを好む言語であり、本研究ではこれを「連続」と考える。

これらの先行研究ではまだわかっていないことが多い。また、区切り方が英語や日本語と異なるとされてきたが、その「一つの文」のまとまりがどのようなまとまりであるのかが明らかになっていない。すなわち、「 $SP_1+SP_2+SP_3\dots SP_n$ 。」が全体としてどのようなまとまりをなしているのかが明らかにされてきていない。さらに節間の連関が比較的弱いとされているが、どの程度弱ければ「流水文」なのかもわからないし、どの程度複雑になっていけば「流水文」と呼ぶべきなのかも明らかにされていないし、その本質も明らかにできない。 $SP_1+SP_2+SP_3\dots SP_n$  の「+」の記号がどのような連結になっているのかは明らかになっていないということである。まとめれば、本研究の議論は次の二点を中心とした。

- A. 「 $SP_1+SP_2+SP_3\dots SP_n$ 。」が全体としてどのようなまとまりをなしているのか
- B. 「 $SP_1+SP_2+SP_3\dots SP_n$ 。」における SP 間の関連

A、B が明らかになっていない理由は、欧米言語の分析に用いられた複文の分析、即ち「従属節 主節」からなる複文の分析をそのまま当てはめようとしているからである。中国語の連続構造は、これに対して埋め込まれていない節が並列的に連続するものであるから、それに即した分析を行えば、中国語の複雑な「一つの文」がどのようにになっているのかの謎が解けることを主張した。

## (2) 時間軸に沿って継起的に起こる出来事と連続構造

中国語では主語が同一であろうと、途中でかわろうと、時間軸に沿って継起的に起こる出来事を連続させて「一つの文」として表すことができる。

中国語では従来から連体修飾構造を用いず、動詞句を連続させやすい言語であることは指摘されていた。この際、一連の動作は「一つの文」とされやすい。主語が同じ場合だけでなく、途中で何度も切り替わっても「一つの文」にすることが可能である。時間軸に沿って継起的に起こる出来事とは、単に人物の動作の連続だけではない。中国語では瞬間的な動作のほか、時間の

幅のある動作、さらには動作結果など、さまざまな要素を時間軸に沿って連続させることが可能である。つまり、状態性の叙述も時間軸上に組み込まれることによって時間性を獲得する。従来の複文分析は「条件、仮定、順接…」のように、前件と後件、つまり二つの単文の関係で分析するのが普通であった。しかし中国語の連続構造は、そうした論理的关系ではない単位で見ることがあることがわかる。このような節の連続では、 $SP_1+SP_2+SP_3\dots SP_n$  における SP 間の関係は時間的連続であり、全体のまとまりは一つの時間的連続として叙述者が差し出すものと理解できる。時間軸が決定的な役割を果たしているのである。

### (3) 性質・状態性叙述の標点節を含む連続構造

本章では以下の点について詳述する。

ある空間・人物の一時的状態や性質の描写が行われる場合、それ全体で「一つの文」にすることが多い。また、時間的展開のある出来事の叙述の中にも性質・状態を表す叙述が連続して統合され、「一つの文」になる。

このほか、状態や性質を表す「一つの文」において、「原因 結果」の順で叙述される点、「全体 部分」の順で叙述される点、隣接した順に叙述される点、接続詞・指示詞を比較的使わず、別の手段で結束させることが多い点を合わせて論じていく。

### (4) 判断、説明、評価と連続構造

中国語では説明、判断、評価なども時間軸に沿って継起的に起こる出来事や性質・一時的状態の叙述と統合されて「一つの文」となる。

ある出来事や描写に対して、説明・判断・評価をする場合、日本語などでは「一つの文」にはしにくいのが、中国語ではそこまでを「一つの文」にするが自然であることを論じる。さらに詳細情報や原因・理由が接続詞等を使用せずに直接後続するパターンなどを論じた。

### (5) 「流水文」とその修辭的特徴

中国語は、本研究で論じてきている通り、比較的独立した節が並列的に連続することによって複雑な観念を表す言語である。そして、この特徴を利用して修辭構造も発展させてきたと考えられる。先行研究において、「流水文」と呼ばれてきたように、確かに流れる水のような印象を受ける。その理由は、修辭的構造にあることを明らかにした。

### (6) 日本語の「長い文」の規範

中国語と対照させて、現代日本語において複雑な「一つの文」は、どのような規範で出来上がっているのかを明らかにする。これまでの複文分析ではほとんど問題にされていなかったことが浮かび上がってくる。

### (7) 歴史的経緯素描

本研究が問題としているのは共時的な分析であるが、現在の規範は当然のことながら歴史的に発展してきたものである。最後に、歴史的な関係について簡単に触れた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 橋本陽介	4. 巻 15
2. 論文標題 中国語書き言葉における「文」論序説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文科学研究	6. 最初と最後の頁 161 - 172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 橋本陽介	4. 巻 38
2. 論文標題 現代中国語における時間軸に沿って継起的に起こる出来事と連続構造	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 お茶の水女子大学中国文学会報	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 橋本陽介	4. 巻 16
2. 論文標題 中国語における性質・状態性叙述を含む連続構造	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文科学研究	6. 最初と最後の頁 143-155
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 橋本陽介	4. 巻 72
2. 論文標題 中国語「流水文」とその修辭的特徴について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本中国学会報	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 橋本陽介
2. 発表標題 「一つの文」とは何か
3. 学会等名 表象文化論学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----